

# 多雪地に生きるヤナギ 「ユビソヤナギ」



▲ユビソヤナギの雄花(写真提供:菊地賢さん)

## 第11回ブナセンター講座

只見町ブナセンターでは、6月19日まで「絶滅危惧種ユビソヤナギのすべて」と題した特別展示を、「ただみ・ブナと川のミュージアム」で開催しています。これに関連し、5月8日には、ユビソヤナギ研究の第一線に携わる森林総合研究所の「菊地賢さん」を講師に招いて、ブナセンター講座「ユビソヤナギの生態と只見の自然」を行いました。受講者は30人で、町内をはじめ、会津坂下町や新潟市からの参加もありました。

### 伊南川は、国内最大のユビソヤナギ自生地

町内を流れる伊南川や只見川のほとりには、ヤナギの仲間を主役にした豊かな水辺林が広がっています。オノエヤナギ、ユビソヤナギ、オオバヤナギ、シロヤナギ、ネコヤナギなどが分布していますが、ヤナギの仲間は見分けがむずかしく、どれも同じように見えます。そのひとつ、ユビソヤナギは、1972年に群馬県の湯檜曾川で発見された日本固有のヤナギで、2003年には、町内の伊南川でもみつかりました。現在は流域80km以上に渡って2497本が

確認され、国内最大の自生地として注目されています。

菊地さんは、ユビソヤナギが新種として発表されるまでの経緯とその後経過を紹介し、「伊南川での発見が、その後の流れを大きく変えました」と説明します。これまで太平洋側にのみ分布していると思われていたユビソヤナギが、はじめて日本海に流れる川で発見され、調査の範囲を広げたところ、本州北部の多雪地域で次々と発見されることになったとのことでした。

「ユビソヤナギは、めずらしい植物というよりも、多雪地域の山地河畔林を代表する植物だといえます」と話す菊地さん。川のほとりに生えるヤナギの仲間は、川の氾濫を利用して世代交代する特徴があります。ユビソヤナギは、ほかのヤナギより早く、4月上旬には花を咲かせますが、それは雪どけ水が収まるタイミングに合わせて種子を散布させるためだとされています。

### ユビソヤナギの保護には、水辺の自然環境の保全と住民の関心が重要!

次の話題では、多数の新たな自生地の発見によりユビソヤナギの絶滅の危険性が低くなり、絶滅危惧種IB類からII類へと

変更されたことについて説明されました。菊地さんは「だからといって楽観視はできません。河川改修工事などで、各地の自生地が失われている現状があります。ユビソヤナギの寿命は短く30年から長くて50年です。めずらしい種として単一で保護するのではなく、ユビソヤナギを含むヤナギ林が世代交代を続けていける自然度の高い河川を守っていくことが大切だと思います。伊南川流域のように、広範囲で自然が残っている河川は全国でも限られています。また、ユビソヤナギの調査を行なった、ただみの自然に学ぶ会など、関心の高い人々がいることも大切なことだと思います」と話しました。質疑応答では、「伊南川の保全状況は?」「雑種との見分け方は?」「温暖化の影響は?」など、熱心な質問があげられました。ユビソヤナギについての質問などがありましたら、「ただみ・ブナと川のミュージアム」にお問い合わせください。スタッフやボランティアが対応いたします。

午後は、伊南川と黒谷川の合流点に移動して現地観察会を行いました。参加者は15人で、ヤナギの花の香りに包まれながらユビソヤナギをはじめヤナギ類の見分け方を学びました。

## Profile

### 菊地 賢(きくち・さとし)さん

▽独立行政法人森林総合研究所、生態遺伝研究室、主任研究員。オオヤマレンゲ、ユビソヤナギ、ハナノキなどを対象に保全遺伝学、系統地理学的研究に携わる。『只見町文化財等差報告書第14集・ユビソヤナギの生態と遺伝』に、鈴木和次郎館長(当時、森林総合研究所在籍)と共に携わる。



▲ただみ・ブナと川のミュージアムでの講座

中朝日地区経営体育成基盤整備事業  
起工式・安全祈願祭



▲安全を願い鍬入れをする目黒町長

中朝日地区（上福井・黒谷）の基盤整備事業に伴う面工事が平成23年度に着工します。その起工式と安全祈願祭が5月10日に、上福井地区内のラジオ塔わきで行われました。起工式で只見町土地改良区理事長の目黒町長は「農業を取り巻く環境は大変厳しいが、農地を守り生産していくことが重要。町でも協力・支援を

していく。この工事が滞りなく進行すること、立派な農地が完成することを願っている」とあいさつをしました。続いて、五十嵐拓町議会議長が祝辞を述べました。

引き続き安全祈願祭が行われ、神事では、宍戸裕幸南会津農林事務所長をはじめ、目黒町長、佐藤好正上福井事業組合長、小沼武夫黒谷事業組合長らが、工事の安全を願い、鍬入れや玉串奉天を行いました。最後に工事を行なう大正工業株式会社によるブルドーザーの始動があり、出席者全員で起工を確認、円滑な工事の進捗を祈念しました。



▲安全祈願祭での神事

区長と町当局が活発な意見交換  
平成23年度町政報告会

5月13日に、区長連絡協議会総会が行われ、終了後に平成23年度町政報告会が開かれました。役場からは目黒町長、久保副町長、各課等の長が出席し、区長との意見交換を行いました。

はじめに目黒町長から、「今回の震災で被災された方への義援金のご協力ありがとうございました。町は少子高齢化など多くの課題を抱えています。皆さんからの意見を反映させ、より効果的に町政を運営していきます」とあいさつがありました。続いて、各担当課長などから本年度の重点事項や協力事項についての説明が行われ、質疑応



▲季の郷湯ら里で行われた町政報告会

答に入りました。質疑応答では、町道改良の促進、集落元気づくり事業交付金制度、地元産木材の利活用の推進、原発事故の風評被害対策、有害鳥獣駆除、集会施設の修繕、道路愛護活動などについて、活発な意見交換がなされ、副町長や担当課長などから現状の報告や、今後の進め方、方針などの説明がありました。

対策が必要な課題や報告を要する事案については、今後、調査検討しながら、随時報告していくこととし、町政報告会を終了しました。



▲意見交換で発言する区長

将来は通年通行が可能な道路に  
国道252号六十里越雪わり街道再開通式



▲目黒町長ら関係者によるテープカット

穏やかな春の日差しがふりそそぐ天候のなか、只見町「歳時記会館」を会場に、5月14日、国道252号六十里越雪わり街道再開通式が行われました。

主催者を代表し国道252号六十里越雪わり街道を愛する会長の菅家俊一、只見町商工会長が「この街道を安心して利用いただけるよう今後も

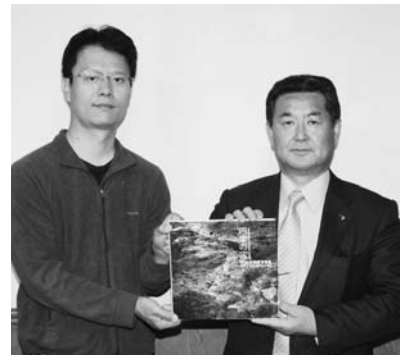
努力します。新潟県との地域発展に期待します」とあいさつを述べ、続いての祝辞で目黒町長は「この度の震災でこの街道の通年通行の必要性、重要性を痛感しました。新潟県からの物資の輸送が役立ちました。今後、皆さんのご協力をいただきながら、被災地の復興を支援するための元気な地域づくりを進めます」と述べました。

その後、関係者によるテープカットが華やかに行われ、只見町からも目黒町長や五十嵐拓町議長、菅家俊一町商工会長が参列しました。会場では、只見町の「天領只見仙嶽太鼓」や魚沼市の「鬼面獅子山太鼓」の勇壮な太鼓演奏、マジックショー、特産品などが当たる抽選会などが行われたほか、魚沼・只見の物産販売コーナーも設けられ、観光客などにぎわっていました。このイベントは、15日も行われました。



▲鬼面獅子山太鼓

林明輝さん写真集200冊を寄贈



▲目黒町長に写真集を手渡す林さん(左)

写真家で横須賀市在住の「林明輝(りん・めいき)さん」が、日本各地の自然風景を写した写真集「四季の宝物」を出版され、只見町に200冊寄贈されました。この写真集は、貴重でかけがえない日本の自然が織りな

す季節の風景を収めたもので、表紙には恵みの森が採用されているほか、収められている全99作品のうち、表紙を含め9点が只見の自然を写した写真となっています。

林さんは、5月13日に役場本庁を訪れ、目黒町長に写真集を手渡されると「震災で被災された方々をはじめ、福島県の方々が、この写真集をご覧になって福島のすばらしさを再発見していただき、自信と誇りを取り戻してもらえれば最高の喜びです」と笑顔で話されました。

写真集は町内の小中学校と高校、各地区センター図書室などに置かれる予定です。

目黒邦友さんに消防庁長官表彰



▲章記を受け取る目黒さん(右)

只見町消防団分団長の目黒邦友さん(只見)が、消防功労者消防庁長官表彰の永年勤続功労章を受章されました。

伝達式は、5月18日に役場本庁で行われ、渡辺典雄南会津地方振興局長から目黒分団長へ章記が手渡されました。

目黒分団長は、昭和55年4月に消防団員を拝命以来、30年間、住民の生命財産を守り福祉の向上と近代消防の構築に貢献され、自治体の振興発展に尽力されました。

SL会津只見10周年号



一日駅長・5月22日



はそめ はるきくん(右)  
さんべ このかさ(中)  
さんべ そうたくん(左)

残雪と新緑が魅力

春の臨時列車運行

3日から5日の三日間運行されたのは、大きな窓とレトロな客席が特徴の「風っこ会津只見号」、そして、21日と22日の二日間運行されたのは、C11型蒸気機関車の「SL会津只見10周年号」で、今年も満員の大人気列車が春の香り漂う奥会津を走りまわりました。

只見駅では、SLをバックに記念撮影する人や駅前広場の特設テントで行われた物産販売で山菜などを買い求めたり、お昼を食べたりする人など、思い思いに、只見の春を満喫していました。また、SLが到着した日は、かわいらしい3人の一日駅長が笑顔で「ようこそ只見へ」と歓迎の言葉をかけ、乗客を喜ばせていました。SLの乗客には特製のストラップもプレゼントされました。

風っこ会津只見号



一日駅長・5月21日



きくち あらたくん(右)  
すずき りこさん(中)  
やまだ そうたくん(左)

- ▼【30万円以上】
- （株）津工場様 100万円
- 只見町音楽研究会様 30万円
- 八木沢区様 30万円
- 只見町職員一同 36万9千円
- ▼【団体】
- 小林53戸組合
- 組合長 角田 勝昭 様
- 明和三つ葉会
- 会長 永井 由美 様

右写真：  
日本赤十字社福島県支部・  
太田久雄事務局長(左)に義援  
金を手渡す只見町長・五十嵐  
拓町議会議長・目黒彰一町区  
長連絡協議会会長

- ▼【個人】
- 渡部 省三 様
- 斉藤 成也 様
- 谷地 あい子 様
- 酒井 洋子 様
- 加藤 洋介 様
- 星 文孝 様
- 吉田 六郎 様
- 只見町の合計  
▽1,672件  
▽5,437,109円

- ▼【只見町区長連絡協議会】
- 1,642件
- 2,379,820円
- \*町内の各世帯などから寄せられた義援金です。



- 6月1日現在の受領状況をお知らせします。
- \*30万円以上は金額も記載
- \*受領台帳の記載順に団体と個人を分けて記載
- \*団体代表者又はご本人の承諾を得て記載しています。
- 日本棋院奥会津支部様
- 只見町基愛好会様
- ダム・発電関係市町村全国協議会  
会長 辻 一幸 様
- 只見町建設業協会様
- 石伏区雪屋を作る会様
- （仮）ふじた様
- 全国町村会様
- 蒲生花輪踊り保存会
- 三瓶 新一郎 様
- カタバグループ
- 馬場 直子 様
- 只見スパーマーケット様
- 只見町職員労働組合
- 酒井建設合資会社内
- 只見温泉保養センター様

東日本大震災義援金

ありがとうございます

修験龍蔵院（樋戸・山崎行弘さん）の聖教典籍文書類505点が4月27日に行われた定例教育委員会の承認を受け町の有形文化財に指定されました。指定された文書類は、聖教典籍287点、符札・版木類111点、文書類107点で、現在は福島県歴史資料館（福島市）で保存管理されています。

なかでも、陰陽雑書抜書のひとつは永禄6年（1563年）に書かれた写本であり、国内で発見された陰陽雑書

只見町文化財に指定 修験龍蔵院の聖教典籍文書類

の写本の中で3番目に古いことが判明。また、別な陰陽雑書抜書は無年記ですが、近世初期のものであることから、国内で5番目に古いものと推測される全国的に見ても大変貴重な文化財となっています。



▲文化財に指定された写本